

**授業概要**

(英語の)文法は母語話者の頭の中に収められた知識である。生得的な面も含め無意識のうちに獲得したので母語話者にも中身は説明できない。英語を学習している日本人には相当複雑な文法に見える。しかし日本語も英語も同じ人間言語である。「多様性」の向こう側、もっと深いところで共通性(普遍性)があり、どんな原理があるか、をさぐる。英語の仕組みを調べるために役立つ資料は何でも使う、という立場から、最近の映画(の台本)、ニュース番組、小説や新聞雑誌の記事、インタビューなど英語話者の発話をデータとして多用する。

**授業計画**

第1回	Preliminaries
第2回	Parts of Speech
第3回	Constituency, Trees, and Rules
第4回	Structural Relations
第5回	Binding Theory
第6回	X-bar Theory
第7回	DP Movement
第8回	Wh Movement
第9回	Raising
第10回	Control
第11回	Language Acquisition
第12回	An Alternative: The Dynamic Approach(1)
第13回	An Alternative: The Dynamic Approach(2)
第14回	An Alternative: The Dynamic Approach(3)
第15回	総まとめ(筆記試験)

伝統文法(科学文法)と同様、現代英語学は文法に音韻、意味の問題まで含めることが多い。基礎となる伝統文法のトピック(不定詞、受動態、wh 疑問文、二重目的語構文など)についての(実用的な)知識の確認も毎回行う。

**履修上の注意**

主として講義形式であるが、履修する学生にレポートしてもらうこともある。現代は何でも翻訳版が出ているが、英文法の研究だから、(翻訳はあまり当てにならないこともあるので)、英語の文献も取り上げるようにしたい。

**評価方法**

宿題、発表などを毎回こなしているかどうか。試験の成績。出席状況(欠席や遅刻はないか)。授業への参加度。この様な点を総合的に評価して成績を出す。

**テキスト**

印刷教材を使用する。

参考文献は随時紹介する。とりあえず次の入門書を挙げておく。

大津由紀雄、池内正幸、今西典子・他[編]『言語研究入門：生成文法を学ぶ人のために』  
研究社

Carnie (2007) *Syntax: A Generative Introduction*, Blackwell.